NO208　5月号

FOREST NEWS

未来を守る木を植える
未来を育てる木を植える

2025年度　指標

①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
②国内において累計５００本の植樹活動
③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
④セミナーや植樹祭を通じて「家族で木を植える」文化の啓蒙
⑤混植密植の植樹を推進する他団体との連携

NPO法人　地球の緑を守る会　　発行人　藤生輝彦
〒182-0021東京都調布市調布ケ丘2-15-1ビリアベルデ407号　Tel:042-449-0183
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://midori.mond.jp/

理事長メッセージ

どうやって直すのかわからないものを壊し続けるはもうやめてください」~セバン・スズキ~

今回はセバン・スズキ（12才）の「地球環境サミット」で語った伝説のスピーチ（要約）を紹介します。

★今日の私の話しにはウラもオモテもありません。なぜって、私が環境運動をしているのは私自身の未来のため。自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけが違うんですから。私がここに立って話をしているのは未来に生きる子どもたちのためです。世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。
★オゾン層にあいた穴をどうやってふせぐかあなたは知らないでしょう。死んだ川にどうやってサケをもどすのか、あなたは知らないでしょう。絶滅した動物をどうやって生き返らせるのか、あなたは知らないでしょう。そして今や砂漠となってしまった場所にどうやって森を蘇らせるのか、あなたは知らないでしょう。どうやって直すのかわからないものを壊し続けるはもうやめてください。

ここでは（国際会議の場）、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。あるいは報道関係か政治家かも知れない。でもほんとうはあなたたちも誰かの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、おじなんです。私はまだ子供ですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです、70億以上の人間からなる大家族。いいえ、実は3千万種の生物からなる大家族です。国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。
★学校で、あなたたち大人は子供に、世の中でどうふるまうかを教えてくれます。たとえば争いをしないこと、話し合いで解決すること、他人を尊重すること、ちらかしたら自分でかたづけること、他の生きものをむやみに傷つけないこと、分かち合うこと、欲張らないこと。ならばなぜあなたたちは、私たちにするなということをしているのですか。なぜあなたたちがこうした会議に出席しているのかどうか忘れないでください。そしていったい誰のためにやっているのか。それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。みなさんはこうした会議で私たちがどんな世界に育ち生きて行くのかを決めているのです。

パンタナールの自然林再生　混植密植による取組み

自然の森の力を活かす混植密植

「混植密植」は、横浜国立大学名誉教授であった宮脇昭氏が提唱・実践してきた独自の植樹方法、「宮脇方式」として知られる植栽方式の主要な特徴の一つです。
この方式では、以下の点に重点が置かれます

- その土地本来の自然環境に適した樹木（「潜在自然植生」と呼ばれる種類の木）を中心に選びます。
- 多くの種類の苗木（ポット苗）を混ぜて、通常よりも高密度で植え付けます。

①密度について
　1平方メートルあたり3本の苗木を植えるという密植の一つの目安と考えられます。

②種類数について
　その土地の潜在自然植生に基づいて適切な種類を選定し、複数種類混ぜて植えることが原則です。植樹する面積にもよりますが、３０種類以上を混ぜて植樹することが提唱されています

混植密植を行う意味や効果

①成長促進
　苗木同士が光や養分を求めて競い合うことで、通常よりも早い速度で成長します。年で10mといった成長が期待されます。

②雑草抑制
　枝葉が茂ることで地面への日光を遮断し、雑草の育成を妨げます。

③病害虫への耐性強化
　多様な種類の木が混ざることで、病害虫が発生しにくくなり、森全体が病害虫に強くなります。

④災害への強さ
　栄養価の高い土壌で地中深くに根付くことで、台風や地震、火災といった災害に対しても強い森へと成長します。特に火災に対しては、樹木の枝葉による熱の遮断や、常緑広葉樹が含む水分による冷却効果が延焼防止に繋がります。

　このように、混植密植は苗木間の生存競争を促し、短期間で多様で健康な森を形成するための重要な手法です。これは最終的に、CO2吸収による温暖化対策、水資源の涵養、土砂災害や洪水の防止、火災からの人命保護、生物の生息環境保護といった多くの防災環境保全効果をもたらす「本物の森づくり」に繋がると考えられています。
　今回のレダ現地で行う植樹は、現地で育てたポット苗７種類（ケブラッチョ・パラサント・モリンガ他）の混植密植して植樹する予定です。

Ledaで育てた苗木（アルガロボ）

レダで育てた苗木（パパイヤ）

他団体の植樹活動に参加してきました

第28回湘南国際村めぐりの森植樹祭

　神奈川県有地である湘南国際村めぐりの森で５月11日(日)に第２８回植樹祭を開催（非営利型一般社団法人 Silva他主催)、当法人から船橋支部から初参加2名を含む６名が参加しました。
　当日は、全体で６６６名の方が参加、４，０００本の植樹活動を行っていきました
今回の植樹活動で緑化累計面積は、２．４８ヘクタール、植樹累計本数は、８４，３６２本となり、バブル期の開発跡地であった荒廃地が人の手によって、原生林に近い土地本来の森へ再生されていくことを実感する時間となりました

主催者の川上都志子さんの言葉です
「私たちが目的とする土地本来の森は、山にある筈の『森』を蘇らせ山に山らしさを取り戻し、森林の防災・防風・防塵・防水・減温の機能を復活させ、次世代を担う子供たちへ継承し、日本らしさを取り戻すことができます。
　私は、森づくりを通じて、生き生きと“蘇る”が如く再生される方を多く拝見して参りました。『森が滅びる時、文明も滅びる』という通説の逆転として、『森が再生される時、生物も生きなおす』そんな実感を得ております」

初参加者の感想（２０代男性）

　初めて植樹をして良い経験になったと感じている。苗木1本を植えるのも簡単ではないことを体験することができたし、配置の間隔や樹種の選択、樹木の乾燥防止の工夫等、考えることがたくさんあり自分が想像していた以上に大変な作業であることを体感することができた。自然の再生力に任せるだけでなく植樹という形で、森林に人の手助けを加えることにより、早く確実に地球環境を保護でき、快適な暮らしの向上や次世代の暮らしを守ることに繋がるため、今後も積極的に取り組むことが大事だと思った。また、森林は、人工物であるダムの雨水貯留量の約200～400倍あり、経済面においても計り知れない恩恵を与えてくれていることを知ることができた。たくさんの学びと経験を知識と実践から学ぶことができたため、充実した時間であったし、この学びを今後活かすためにも樹木について学びを深めていきたいと思った。

高尾小仏育樹祭　2025年5月10日

　高尾小仏植樹活動は、東京都八王子市裏高尾町を通る中央高速道路の小仏トンネルの工事残土で出来た広大な盛土場における取り組みです。自然環境保全及び防災・治安の観点も踏まえ、２０１７年１０月の植樹祭に始まり、毎年、植樹祭を開催し２０２３年秋の第７回植樹祭において頂上部に達しました。２０２４年からは、植樹地の保全のための育樹・補植活動に移行しています。
　当法人からは６名が参加しました